

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月13日
【四半期会計期間】	第42期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 中西 正樹
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	執行役員 大嶋 敏史
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	執行役員 大嶋 敏史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第41期 第3四半期 連結累計期間	第42期 第3四半期 連結累計期間	第41期
会計期間		自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
営業収入	(百万円)	37,985	44,406	55,166
経常利益	(百万円)	2,803	5,994	4,611
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(百万円)	3,117	3,564	4,442
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	3,023	3,987	4,410
純資産額	(百万円)	29,058	34,595	30,445
総資産額	(百万円)	40,904	52,865	45,599
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	180.36	205.72	256.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	67.5	60.2	63.3

回次		第41期 第3四半期 連結会計期間	第42期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	125.47	72.00

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益の算定において、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。
5. 第42期第1四半期連結累計期間より、金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。なお、比較を容易にするため、第41期第3四半期連結累計期間及び第41期についても百万円単位で表示しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

(メディアビジュアル事業)

当第3四半期連結会計期間において、当社の持分法適用関連会社であった株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンの株式を追加取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」に記載しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

〔当第3四半期連結累計期間の経営成績〕

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	増減	増減率 (%)
営業収入	37,985	44,406	6,421	16.9
営業利益	2,608	5,935	3,327	127.6
経常利益	2,803	5,994	3,190	113.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,117	3,564	446	14.3

〔経営成績の分析〕

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の各種経済政策などにより、企業収益や雇用、所得環境の改善傾向が続くなど緩やかな回復基調が継続いたしましたが、通商問題を巡る動向、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動などに留意すべき状況が続いております。

当社グループの経営成績は営業収入444億6百万円(前年同四半期比16.9%増)、営業利益59億3千5百万円(前年同四半期比127.6%増)、経常利益59億9千4百万円(前年同四半期比113.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益35億6千4百万円(前年同四半期比14.3%増)と増収増益となりました。前年同四半期に比べ、大型コンサートツアー、関連グッズ収入の増加により増収増益となりました。

<営業収入>

- ・ イベント収入(大型コンサートツアー)が増加
- ・ 商品売上収入(グッズ・商品収入、音楽パッケージ)が増加
上記要因などにより増収となりました。

<営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益>

増収要因により増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(営業収入)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	増減	増減率 (%)
アーティストマネージメント事業	33,096	39,529	6,432	19.4
メディアビジュアル事業	941	832	109	11.6
コンテンツ事業	2,285	2,183	101	4.5
プレイスマネージメント事業	1,661	1,862	200	12.1
合計	37,985	44,406	6,421	16.9

(セグメント利益又は損失())

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	増減	増減率 (%)
アーティストマネージメント事業	2,903	6,139	3,235	111.5
メディアビジュアル事業	94	74	19	20.9
コンテンツ事業	876	778	97	11.1
プレイスマネージメント事業	114	213	98	-
調整額	1,150	843	307	-
合計	2,608	5,935	3,327	127.6

【アーティストマネージメント事業】

営業収入395億2千9百万円(前年同四半期比19.4%増)、セグメント利益61億3千9百万円(前年同四半期比111.5%増)となり、増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ イベント収入：<コンサート>
サザンオールスターズ、SEKAI NO OWARI、flumpool、
ONE OK ROCK、高橋優、藤原さくらのコンサートツアー
福山雅治、ポルノグラフィティ、BABYMETALのコンサート
Amuse Fes in MAKUHARI 2019
<舞台・公演>
ブロードウェイミュージカル「キンキーブーツ」日本版
熱海五郎一座「翔べないスペースマンと危険なシナリオ」
茅ヶ崎サザン芸術花火2019
- ・ 商品売上収入：コンサートグッズ、BABYMETAL(アルバムCD、ライブBD)
- ・ 印税収入(新譜)：Perfume(ライブBD)、ONE OK ROCK(アルバムCD)
- ・ 出演収入・CM収入：大泉洋、神木隆之介、佐藤健、三浦春馬、仲里依紗、吉高由里子、ホラン千秋など

<営業収入>

- ・ イベント収入(大型コンサート公演数、規模など)が増加
(前年同四半期は福山雅治、ONE OK ROCKのコンサートツアーなど)
- ・ 商品売上収入(コンサートグッズ、音楽パッケージ)が増加
(前年同四半期よりイベント収入増加による関連グッズ増加、音楽パッケージ大型作品増加)
上記要因などにより増収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 増収要因により増益となりました。

【メディアビジュアル事業】

営業収入 8 億 3 千 2 百万円（前年同四半期比11.6%減）、セグメント利益 7 千 4 百万円（前年同四半期比20.9%減）となり、減収減益となりました。

【主な事業】

- ・ 映像作品販売収入：映画「ギャングース」、神木隆之介主演映画「フォルトゥナの瞳」、吉高由里子主演ドラマ「わたし、定時で帰ります。」などのDVD販売収入
- ・ 映像製作収入：神木隆之介主演映画「フォルトゥナの瞳」劇場配給分配収入
佐藤健が主演声優を務めた3DCGアニメーション映画「ドラゴンクエスト ユア・ストーリー」劇場配給分配収入
- ・ 番組制作収入：単発番組の制作受託など

<営業収入>

- ・ 映像作品販売収入の減少
（前期はTEAM NACS舞台「PARAMUSHIR」、大泉洋主演映画「探偵はBARにいる3」などのDVD販売収入）
- ・ 映像製作収入の減少
（前期は佐藤健主演映画「8年越しの花嫁」劇場配給分配収入）
上記要因などにより減収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 減収要因により減益となりました。

【コンテンツ事業】

営業収入21億 8 千 3 百万円（前年同四半期比4.5%減）、セグメント利益 7 億 7 千 8 百万円（前年同四半期比11.1%減）となり、減収減益となりました。

【主な事業】

- ・ サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfume、ONE OK ROCK、BABYMETALなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用

<営業収入>

- ・ 原盤印税の減少などにより減収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 減収要因により減益となりました。

【プレイスマネージメント事業】

営業収入18億 6 千 2 百万円（前年同四半期比12.1%増）、セグメント損失 2 億 1 千 3 百万円（前年同四半期は1億 1 千 4 百万円のセグメント損失）となりました。

【主な事業】

- ・ 東京ワンピースタワーの入場料収入、グッズ販売収入
- ・ ベルギービール等の飲食店収入
- ・ LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）の施設管理・運営

<営業収入>

- ・ 2019年10月より開設したLINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）の利用料収入により増収となりました。

<セグメント利益>

- ・ 東京ワンピースタワーの運営費が増加したとLINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）の初期費用により減益となりました。

【財政状態の分析】

当第3四半期連結会計期間末の総資産は528億6千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ72億6千6百万円増加いたしました。主な増加要因は、連結子会社の増加に伴う「現金及び預金」及び「営業未収入金」の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は182億6千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億1千5百万円増加いたしました。主な増加要因は、「未払法人税等」の減少はありましたが、連結子会社の増加に伴う流動負債「その他」の増加が減少要因を上回ったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は345億9千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ41億5千万円増加いたしました。主な増加要因は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上によるものであります。この結果、自己資本比率は60.2%となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	74,494,080
計	74,494,080

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,623,520	18,623,520	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	18,623,520	18,623,520	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	18,623,520	-	1,587	-	1,694

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 905,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,503,400	175,034	-
単元未満株式	普通株式 214,820	-	-
発行済株式総数	18,623,520	-	-
総株主の議決権	-	175,034	-

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式190,000株(議決権数1,900個)及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式183,400株(議決権数1,834個)が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アミューズ (自己保有株式)	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	905,300	-	905,300	4.86
計	-	905,300	-	905,300	4.86

(注)「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式190,000株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式183,400株は、上記自己株式に含めておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,473	30,113
営業未収入金	6,625	8,196
商品及び製品	1,667	1,977
仕掛品	1,865	2,381
原材料及び貯蔵品	131	185
その他	2,084	2,471
貸倒引当金	443	501
流動資産合計	37,404	44,824
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,118	1,591
土地	856	899
その他（純額）	610	271
有形固定資産合計	2,585	2,762
無形固定資産		
のれん	163	139
その他	344	335
無形固定資産合計	507	475
投資その他の資産		
投資有価証券	2,928	2,706
その他	2,377	2,116
貸倒引当金	203	19
投資その他の資産合計	5,102	4,803
固定資産合計	8,194	8,041
資産合計	45,599	52,865

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	10,117	11,714
未払法人税等	1,383	652
役員賞与引当金	34	-
従業員株式給付引当金	2	1
返品調整引当金	14	1
ポイント引当金	24	29
その他	2,190	4,413
流動負債合計	13,766	16,811
固定負債		
役員株式給付引当金	61	91
退職給付に係る負債	1,264	1,295
その他	61	70
固定負債合計	1,386	1,457
負債合計	15,153	18,269
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587	1,587
資本剰余金	2,072	2,337
利益剰余金	26,500	29,403
自己株式	1,240	1,400
株主資本合計	28,919	31,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34	3
為替換算調整勘定	77	110
その他の包括利益累計額合計	42	107
非支配株主持分	1,568	2,774
純資産合計	30,445	34,595
負債純資産合計	45,599	52,865

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業収入	37,985	44,406
営業原価	31,035	34,282
営業総利益	6,949	10,124
返品調整引当金戻入額	0	13
差引営業総利益	6,949	10,137
販売費及び一般管理費	4,341	4,201
営業利益	2,608	5,935
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	25	56
持分法による投資利益	138	-
為替差益	11	-
受取手数料	11	9
事業組合投資利益	2	-
その他	22	27
営業外収益合計	213	95
営業外費用		
為替差損	-	19
事業組合投資損失	-	4
固定資産除却損	11	2
持分法による投資損失	-	3
その他	5	6
営業外費用合計	17	36
経常利益	2,803	5,994
特別利益		
固定資産売却益	1,729	-
投資有価証券売却益	5	38
関係会社株式売却益	-	50
段階取得に係る差益	-	162
特別利益合計	1,734	151
特別損失		
投資有価証券評価損	-	0
減損損失	-	2102
特別損失合計	-	103
税金等調整前四半期純利益	4,538	6,042
法人税、住民税及び事業税	1,396	1,597
法人税等調整額	119	392
法人税等合計	1,516	1,990
四半期純利益	3,022	4,052
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	95	487
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,117	3,564

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,022	4,052
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	31
為替換算調整勘定	8	33
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	1	64
四半期包括利益	3,023	3,987
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,119	3,500
非支配株主に係る四半期包括利益	95	487

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 段階取得に係る差益

当第3四半期連結会計期間において、当社の持分法適用関連会社であった株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンの株式を追加取得し、連結子会社としたことにより段階取得に係る差益62百万円を計上しております。

2 減損損失

当第3四半期連結会計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

(単位：百万円)

場所	用途	種類	減損損失
-	-	のれん	102

株式会社FRIENDS及び株式会社COMITASにおいて、取得時の事業計画において想定した超過収益力が見込めなくなったことから、当該のれんの当第3四半期連結会計期間末の未償却残高の全額を減損損失として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	242百万円	232百万円
のれんの償却額	61	61

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

当第3四半期連結会計期間において、当社の持分法適用関連会社であった株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンの株式を追加取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月24日 定時株主総会 (注)1	普通株式	219	12.5	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金
2018年11月13日 取締役会 (注)2	普通株式	351	20.0	2018年9月30日	2018年12月4日	利益剰余金

(注)1. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,620株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式134,560株に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,620株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式118,270株に対する配当金5百万円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月23日 定時株主総会 (注)1	普通株式	351	20.0	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金
2019年11月13日 取締役会 (注)2	普通株式	310	17.5	2019年9月30日	2019年12月3日	利益剰余金

(注)1. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式146,620株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式109,470株に対する配当金5百万円が含まれております。

2. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式190,070株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式183,450株に対する配当金6百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	プレイス マネージメント 事業	計		
営業収入							
外部顧客への 営業収入	33,096	941	2,285	1,661	37,985	-	37,985
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	54	139	273	43	512	512	-
計	33,151	1,081	2,559	1,705	38,497	512	37,985
セグメント利益 又は損失()	2,903	94	876	114	3,759	1,150	2,608

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 1,150百万円には、セグメント間取引消去269百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,420百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	プレイス マネージメント 事業	計		
営業収入							
外部顧客への 営業収入	39,529	832	2,183	1,862	44,406	-	44,406
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	67	265	246	0	580	580	-
計	39,596	1,097	2,429	1,862	44,987	580	44,406
セグメント利益 又は損失()	6,139	74	778	213	6,779	843	5,935

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 843百万円には、セグメント間取引消去2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 845百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産の減損損失に関する情報)

当第3四半期連結会計期間において、「アーティストマネージメント事業」に属する株式会社FRIENDS及び株式会社COMITASののれんについて減損損失を計上しております。取得時の事業計画において想定した超過収益力が見込めなくなった当第3四半期連結会計期間末の未償却残高の全額102百万円であります。

(のれんに関する情報)

当第3四半期連結会計期間において、「メディアビジュアル事業」に属する株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンの株式を追加取得したことによりのれんが発生しております。当該のれんの発生額は139百万円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社の持分法適用関連会社であった株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンの株式を追加取得したことにより、同社を連結子会社としました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ライブ・ビューイング・ジャパン
事業の内容 イベント興行の中継、および上映事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社はアーティストとともにコンテンツをつくり多くのファンの方々に届けることが主たる事業であり、株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンの事業はその重要な機能の一部となると判断し、子会社化することにいたしました。

(3) 企業結合日

2019年12月2日(みなし取得日 2019年12月31日)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	37.04%
企業結合日に追加取得した議決権比率	13.06%
取得後の議決権比率	50.10%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第3四半期連結累計期間は貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

なお、当第3四半期連結累計期間までの業績につきましては、当四半期連結財務諸表に持分法による投資利益として計上しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

株式譲渡契約の定めにより、当社は機密保持義務を負っていることから非開示とさせていただきます。

4. 被取得企業の取得原価と取得に至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 62百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

139百万円

(2) 発生原因

取得原価が取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額に対して超過した差額を、のれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	180円36銭	205円72銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	3,117	3,564
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	3,117	3,564
普通株式の期中平均株式数(株)	17,287,286	17,328,468

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 「1株当たり四半期純利益」の算定上、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第3四半期連結累計期間256,090株、当第3四半期連結累計期間362,720株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月13日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....310百万円
(ロ) 1株当たりの金額.....17円50銭
(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月3日

- (注) 1. 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行っております。
2. 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式190,070株及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式183,450株に対する配当金6百万円が含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月13日

株式会社アミューズ

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久保 英治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。